

岩村城の本丸に続く登城坂、石畳の敷かれた登城坂の周囲は、スギ、ヒノキ等の樹木が生い茂り、歴史を秘めた静寂感を漂わせており、歴史にふれあうことのできる散策道として脚光を浴びつつある。



岐阜県岩村町は、八〇〇年の歴史を有する城下町であり、源頼朝が鎌倉幕

府を開いたころ、重臣加藤景廉により岩村城が築かれた。これは、標高七二

メートルの急峻な山の頂に本丸を構えた山城であり、日本三大山城の一つに数えられている。城は維新の際にとりこわれ、今は石垣を残すのみであるが、町のシンボルの存在となっている。城の本丸へ続く登城坂は、急勾配の道であり、その周囲にはスギ、ヒノキ等の樹木が生い茂り、歴史を秘めた静寂感を漂わせる並木道となっている。登城坂の石畳はその原型をとどめていなかったが、昭和五九年から石畳の復元を行った。

地元においても「まちづくり実行委員会」を組織し、岩村城址の保存活動の一環として石垣の修復、草刈り等を行い、岩村城の歴史にふれあうことのできる散策道として登城坂の維持管理に努めている。

データボード⑬

- ① 岐阜県岩村町
- ② 岩村町役場 ☎0573-43-2111
- ③ 延長442m、幅員1.8m
- ④ 石垣、石畳、スギ、ヒノキ
- ⑤ 城址能（新能）